

(案)

学際融合・社会連携を指向した
双翼型大学院教育システム
(**Double-Wing Academic
Architecture**)
実装についてのガイドライン

令和●年●月

国際共創大学院学位プログラム推進機構

学位プログラム企画室

(一目次一)

1. 本ガイドラインについて	p.1
2. DWAA における知のジムナスティックスの構成科目群と教育の方向性 ...	p.2
3. 知のジムナスティックスにおける科目群提供部局の取り組み	p.4
4. 知のジムナスティックスにおける科目群取りまとめ組織の取り組み.....	p.5
5. 各研究科の取り組み	p.6
6. 今後の知のジムナスティックスの展開について	p.7

(参考資料)

- ガイドラインにおける科目群提供部局と科目群取りまとめ組織の定義について
(イメージ図)
- 知のジムナスティックスの実装イメージ

1. 本ガイドラインについて

(1) 本ガイドラインの目的

大阪大学(以下「本学」という。)においては、大学院教育における高度教養教育のさらなる展開に向けて、「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム Double-Wing Academic Architecture の基本的な考え方について」(令和2年3月策定)(以下、「基本的な考え方」という。)に基づく Double-Wing Academic Architecture (以下「DWAA」という。)の導入が進められているところです。DWAA では、本学がこれまで取り組んできた高度教養教育等の科目や科目群ⁱを「知のジムナスティックスプログラム」ⁱⁱ (以下「知のジムナスティックス」という。)として体系化することで、より多様な教育プログラムを提供し、学生自身による柔軟なプログラム選択を促進することが企図されています。

上記を踏まえて、本ガイドラインでは、「科目群提供部局」、「科目群取りまとめ組織」及び「各研究科」それぞれの立場において、DWAA の実装に向けて必要となる取り組みについて記載しています。

なお、令和3年度に向けては、現在すでに実施されている高度教養教育に係る各種制度を、「基本的な考え方」に基づいて整理し、知のジムナスティックスへとスムーズに移行することを主な取り組みとしておりますので、このガイドラインを読み進めるにあたっては、まず現状で自部局等が関わっている高度教養教育の制度を把握したうえで、どのような作業が必要になるかを確認してください。

(例) 大学院副専攻プログラム・大学院等高度副プログラムの場合

「科目群取りまとめ組織」は、全学教育推進機構となりますので、全学教育推進機構は、「4. 知のジムナスティックスにおける科目群取りまとめ組織の取り組み」を中心にご確認ください。

また、プログラムの提供部局となっている研究科は、当該プログラムの「科目群提供部局」に該当し、かつ、学生の所属する研究科でもありますので、本ガイドライン「3. 知のジムナスティックスにおける科目群提供部局の取り組み」と、「5. 各研究科の取り組み」を中心にご確認ください。

令和3年度以降(令和4年度に向けて)は、新たな科目群の知のジムナスティックスへの参入を推進し、DWAA を大きく展開していくことを予定しています。

ⁱ 本ガイドラインでいう「科目群」とは、ある教育目的の達成に向けて複数の科目から体系化されている高度教養教育に係る教育プログラムを指します。

ⁱⁱ 平成23年4月から平成30年度まで本学で展開していた「知のジムナスティックス(高度教養プログラム)」とは異なるものです。

(2)「科目群提供部局」と「科目群取りまとめ組織」の定義

DWAA の適用対象は本学大学院生(正規生)です。「各研究科」においては、「基本的な考え方」を十分に理解のうえ、本ガイドラインに従って所属大学院生の修学指導を行ってください。また、本ガイドラインにおいては「科目群提供部局」及び「科目群取りまとめ組織」を以下のように定義し、その取り組みについて整理しています。

①科目群提供部局とは

本ガイドラインでいう「科目群提供部局」とは、知のジムナスティックスを編成する科目群制度に対して、個々の科目群を提供している部局を指します。

②科目群取りまとめ組織とは

本ガイドラインでいう「科目群取りまとめ組織」とは、知のジムナスティックスを編成する科目群を定められた当該制度等に基づき取りまとめ・推進している組織を指します。

※p.9「ガイドラインにおける科目群提供部局と科目群取りまとめ組織の定義について(イメージ図)」、p.10「知のジムナスティックスの実装イメージ」を参照

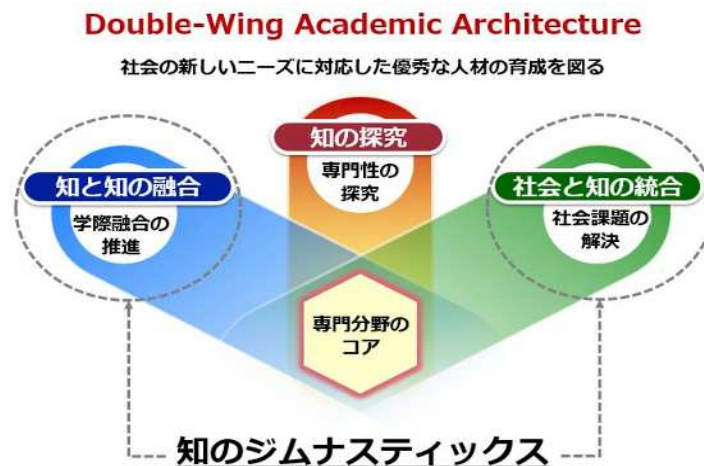
2. DWAA における知のジムナスティックスの構成科目群と教育の方向性

(1) 知のジムナスティックスとは

「知のジムナスティックス」とは、DWAA における大学院教育の方向性のうち、「知と知の融合」及び「社会と知の統合」から構成される高度教養教育等の科目・科目群の総称であり、図表 1 に示されるように両翼に相当する部分です。また、知のジムナスティックスでは、それらの科目・科目群を単位数等(区分(Category)ⁱⁱⁱ)及び、教育の方向性(分類)に基づき、整理しています。これにより、本学大学院における高度教養教育の全体像を示すとともに、各科目、科目群を提供する制度の特徴と目的を把握し易くすることで、学生自身が主体的に選択し、履修することを可能にします。

ⁱⁱⁱ 区分(Category)とは、科目の修得や科目群の修了に必要な単位数毎に大別しているものです。なお、特別な履修条件(学生の所属の限定、選考等)があるプログラムや文科省等のスキームの中で提供されるプログラムについては、区分に加えてS(スペシャル)と定義しています。(詳細は「基本的な考え方」参照)

図表 1 DWAA における知のジムナスティックスの位置付け



(2) 知のジムナスティックスにおける教育の方向性について

DWAA では、従来のスタイルの大学院教育である当該分野での専門性の探求(「知の探究」)という方向性に加え、高度教養教育である知のジムナスティックスにおいて、以下のように「知と知の融合」及び「社会と知の統合」という2つの新たな方向性を提示しています。

① 「知と知の融合」

「知と知の融合」とは、いくつかの異なる学問・研究分野からなる複合領域を学修する科目・科目群を充実することで、異なる分野にも視野を向け、知的地平を広げることができるようにし、新たな知識や技術の組み合わせを試みる創造的な活動を促進できる能力の育成を目指すものです。

② 「社会と知の統合」

「社会と知の統合」とは、解決すべき様々な社会的課題に対し、ステークホルダーとともに解決方法を創造し、さらに社会に実装することができる能力の育成を目的としています。授業の中で、社会課題の解決に実践的に取り組む機会を提供し、異なる背景を持った人々と意思疎通を図る能力や、社会を変えようとする過程で直面する困難を乗り越える力量を身につけることを目指すものです。

(3) 令和 2 年度現在の高度教養教育に係る各種制度

令和 2 年度現在の高度教養教育に係る各種制度は、図表 2 に示すように、令和 3 年度からは DWAA の取り組みとして整理することとします。なお、それぞれの取りまとめ組織については図表 3 のとおりです。

図表 2 令和 2 年度現在の高度教養教育に係る各種制度の知のジムナスティックスにおける位置付け

区分		プログラム名称	
複数科目で体系的に構成され、かつ、合計単位数が14単位以上のプログラム	C4	C4S	● 卓越大学院プログラム ● 博士課程教育リーディングプログラム
			● 大学院副専攻プログラム ● 新プログラム
複数科目で体系的に構成され、かつ、合計単位数が7単位以上13単位以下のプログラム	C3	C3S	● 卓越大学院プログラム ● 理工情報系オーナー大学院プログラム
			● 大学院等高度副プログラム ● Osaka University International Certificate Program (OUICP) <非正規生を除く> ● 新プログラム
複数科目で体系的に構成され、かつ、合計単位数が6単位以下のプログラム	C2		● Osaka University International Certificate Program (OUICP) <非正規生を除く> ● 新プログラム
1科目	C1		● 高度教養教育科目等

※S（スペシャル）…特別な履修条件（学生の所属の限定、選考等）があるプログラム、または、JSTや文科省のスキームの中で提供されるプログラム

※新プログラム…新設されるプログラムを想定

図表 3 令和 2 年度現在の高度教養教育に係る各種制度の取りまとめ組織

プログラム名称	取りまとめ組織
大学院副専攻プログラム・大学院等高度副プログラム	全学教育推進機構
博士課程教育リーディングプログラム	国際共創大学院学位プログラム推進機構
卓越大学院プログラム	各主幹部局（プログラム責任者・コーディネーター在籍部局等）
理工情報系オーナー大学院プログラム	理工情報系オーナー大学院プログラム運営委員会
Osaka University International Certificate Program (OUICP) <非正規生を除く>	グローバルイニシアティブ・センター

3. 知のジムナスティックスにおける科目群提供部局の取り組み

(1) 科目群の提供とその分類

p.3 「2. (3)」に記載の各種制度に科目群を提供する際、DWAA の理念及び教育の方向性に留意のうえ、「知と知の融合」、「社会と知の統合」のいずれかに分類（以下、「分類」という。）してください。

○「知と知の融合」

知のジムナスティックスに置かれている科目群のうち、異なる学問・研究分野または複合領域を学習させるものです。

○「社会と知の統合」

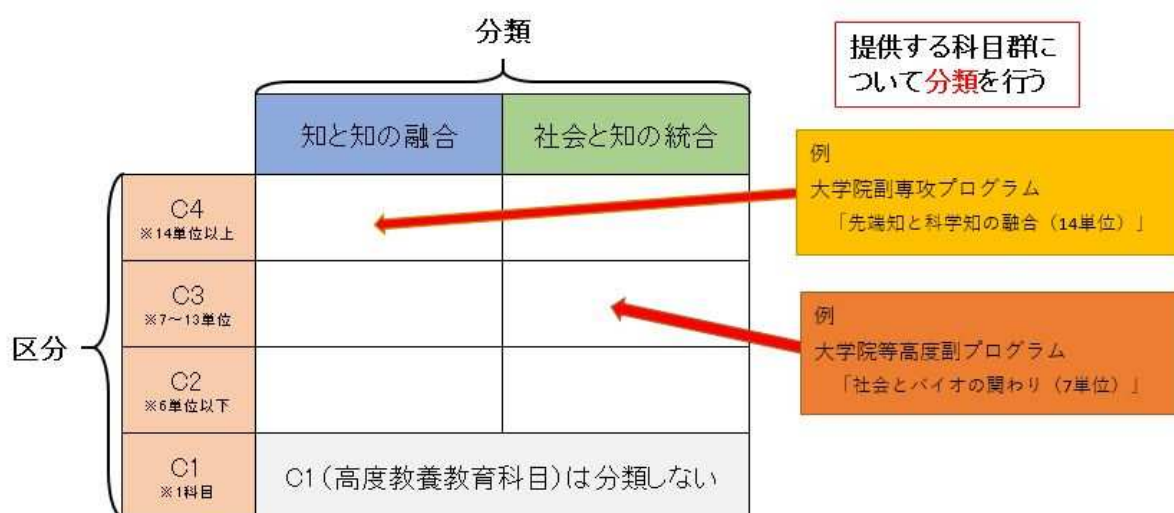
知のジムナスティックスに置かれている科目群のうち、下記 A)または B)、或いは両方の条件に該当するものです。

A)「問題に基づく解決型学習 (PBL: Problem Based Learning)」または、「プロジェクトに基づく解決型学習 (PjBL: Project-Based Learning)」を含むもの

B)学外(社会・企業等)との接点を持った取組を含むもの

※「知と知の融合」及び「社会と知の統合」双方に分類が可能な科目群については、科目群提供部局の判断にて、どちらか一方へ分類してください。

図表 4 知のジムナスティックスにおける科目・科目群の分類と区分のイメージ



(2) 科目群の修了判定

科目群の修了に必要な条件を満たした学生に対しては、当該科目群の制度に従い、修了判定を行ってください。科目群の修了者に対しては、当該科目群の制度により、修了認定書を発行することが可能です。(※リーディングプログラム及び卓越大学院プログラムは学位記に表記されません。)

4. 知のジムナスティックスにおける科目群取りまとめ組織の取り組み

(1) 科目群提供部局へ知のジムナスティックスの分類について確認

科目群取りまとめ組織においては、以下の手順で作業を行ってください。

- ① p.3 「2. (3)」に記載の各種制度に提供された科目群の中で、「知と知の融合」、「社会と知の統合」のいずれかへの分類をまだ行っていないものについては、科目群提供部局に確認してください。その際、必要に応じて、分類の妥当性についての協議等を行ってください。
- ② 各科目群の分類を取りまとめのうえ、国際共創大学院学位プログラム推進機構に提出してください。

※国際共創大学院学位プログラム推進機構にて分類を確定後、取りまとめ組織へ通知します。

(2) 広報活動に際しての取り組み

学生に対し、①DWAA の理念及び概要、②知のジムナスティックスにおける当該科目群の区分(C2~C4)、③教育の方向性の分類についての情報を、受講生募集時のパンフレットやホームページ、ガイダンス等において、十分周知してください。

(3) 科目群等の制度変更に伴う相談・報告

各科目群の制度について変更があった場合、下表のとおり科目群取りまとめ組織の責任者が、国際共創大学院学位プログラム推進機構長へ事前相談、もしくは事後報告することとします。

【制度変更の具体例】

区分の変更を伴う要件単位数の変更	事前相談 (変更の1か月前までに)
区分の変更を伴わない要件単位数の変更	事後報告
知のジムナスティックスの分類または区分に影響しない実施要項または申し合わせの変更	事後報告

(4) 科目群^{iv} の修了認定証の記載項目について

各科目群を修了した際に交付される修了認定証の様式を定める際、以下の項目を付記するよう指定してください。

- 知のジムナスティックスを修了した旨の記載
- 修了認定した科目群の名称
- 知のジムナスティックスの区分・分類
- 科目群の修了年月日

5. 各研究科の取り組み

(1) 学生への周知及び履修指導

新入生ガイダンス及び各研究科が実施するガイダンス等を利用し、学生(新入生及び在学生)に対し、DWAA の理念及び概要を周知してください。

また、入学直後の学生に対して履修指導または個人面談等の機会を設け、学生本人の意向を聞きながら知のジムナスティックスを含む履修計画を学生と指導教員双方で策定してください。

なお、将来的には、DWAA の周知や履修計画の策定等が円滑に進められるような仕組みづくりについても併せてご検討ください。

(2) 知のジムナスティックスの修得単位を研究科修了要件単位数として算入することについての検討

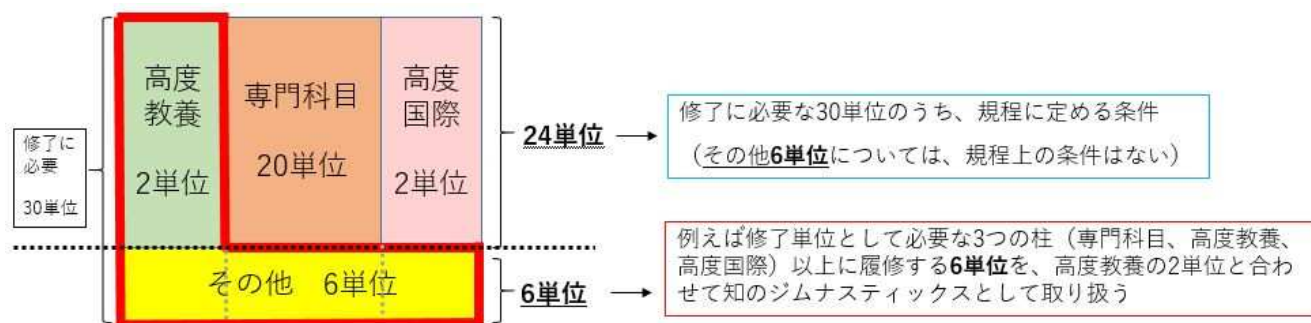
博士前期課程(生命機能研究科博士課程のうち博士前期課程に相当する課程を含む)及び修士課程の学生については、C1 に相当する高度教養教育科目を必修化したことにより、知のジムナスティックスの修了要件化は既に行っていることとなりますが、DWAA では多様な教育の推進のため、学生がより多くの知のジムナスティックス科目／科目群を履修し、単位修得することを目指しています。学生の修学上における負担軽減のため、研究科・専攻の可能な範囲で知のジムナスティックスにおける修得単位を修了要件単位として算入することについて、ご検討ください。

例えば、下記図表 5 に示すように「その他」等の部分を利用して、知のジムナスティックスにおける修得単位を修了要件単位として算入する方法が考えられます。

なお、検討の際には、研究科及び学位プログラムのディプロマ・ポリシーにもご留意ください。

^{iv} 博士課程教育リーディングプログラム及び卓越大学院プログラムを除きます。

図表 5 各研究科における知のジムナスティックスの修了要件算入方法の一例



また、多様な教育の推進のため、博士後期課程における知のジムナスティックス科目／科目群の修了要件単位化についても合わせてご検討ください。

(3) 研究科での修了判定について

学位プログラムの修了判定については、従来どおり各研究科規程に基づいて行ってください。

6. 今後の知のジムナスティックスの展開について

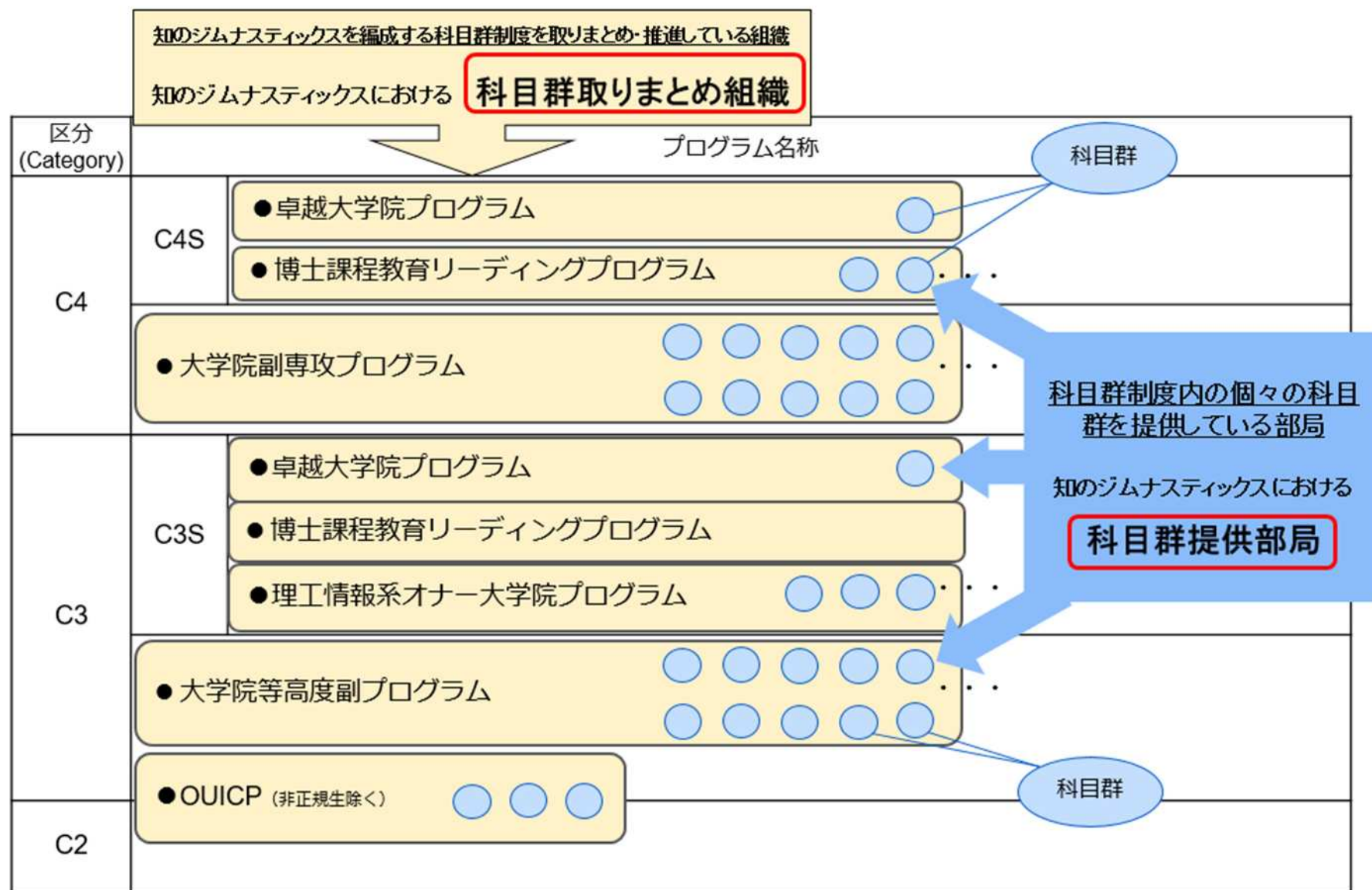
「1.本ガイドラインの目的について」に記載したとおり、令和 3 年度に向けては、高度教養教育に係る既存の各種制度を、「基本的な考え方」に基づいて DWAA の枠組みに位置付けて整理することを主な取り組みとしています。令和 3 年度以降は新たな科目群の参入を推進しますので、新たな科目群のご提案等がありましたら、個別に学位プログラム企画室事務担当までご相談ください。

(学位プログラム企画室事務担当)

教育・学生支援部国際共創大学院支援事務室教務係

mirai-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp

ガイドラインにおける科目群提供部局と科目群取りまとめ組織の定義について（イメージ図）



知のジムナスティックスの実装イメージ

